

## イチローのメジャー新記録に思う

アメリカ時間の2009年9月13日の夕方、イチローが9年連続200本安打のメジャー新記録を達成した。108年ぶりの新記録だそう。このところ明るいニュースが少ない日本にとって、これはまたとないグッドニュースになった。1週間前の9月6日には、メジャー2千本安打も達成した。9シーズン、約1,400のゲームで達成したことは史上2番目だそう。

イチローがバッターボックスに入り、ピッチャーの方を見ながら構えを整え、ボールの種類を見極めてバットを振る一連の動作には、独特の風格が感じられるようになっている。それには、真剣勝負に臨む孤独な剣士を思わせるものがある。彼を見ていると、活躍している場所はアメリカだが、やはり日本人だと思う。アメリカ人には威圧感のあるバッターはいるが、イチローのように孤独な精進を感じさせる人はいないのではないか。

普通に言われていることと逆だが、日本人は団体として何かをすることには実は向いていないのではないかと。日本人には、個人技を徹底的に究めることに静かな情熱を傾ける人が居て、そういう人たちのなかから抜き出された人が現れるのだと思う。野球だけでなく、体操、柔道、水泳、マラソンなどで名選手が生まれたのは、この観察と一致している。日本人は体格や体力の点で外国人に引けをとることが多いので、体格や体力が物を言う場合には、技ではどうしようもないことがある。その点で、野球は

日本人に適した競技だと言えるだろう。

野球と比べて、アメリカンフットボールは日本人には向いていないと思う。体格・体力の点でもそうだが、それだけではない。現代のアメフトは、最高度に組織化された形で戦う典型的な団体競技である。事前の綿密な分析に基づいてタクティクスが精密に決められていて、選手はそれに従って動かなければならない。ヒーローは予め決まっているのだ。相手が居るので、予定どおりに試合が展開するとは限らないが、予定どおりに展開させるようにタクティクスを組み上げるのが監督の仕事である。この競技では、選手が個人技をこつこつと磨いて精神的な高みにまで達するということはまずないだろう。選手に要求されることは、タクティクスどおりにダイナミックに動くことである。こういうことに日本人は不向きだと思う。

最近、日本でもサッカー好きの人たちが増えているので、こういうことを言うと嫌な顔をされそうだが、サッカーも日本人には向いていないのではないかと。サッカーの場合は、アメフトほど事前にタクティクスを精密に決めるということはおそらくないだろうし、今後もしないとなれば、そこがアメフトとは違うということになるのかもしれない。しかし、個人技よりも連携プレーの方に重点を置かなければ勝てない競技であることはアメフトと同じではないだろうか。そして、日本人は連携プレーを組み立てるのは上手ではない。

---

日本は古代から個人技の世界だったと思う。いくさ場では、武士たちは名乗りをあげてから、敵と切り結んだ。つまり、一騎打ちが原則だったのだ。だから、元寇のとき、博多湾に上陸した蒙古勢に対する戦いで、鎌倉武士たちは苦戦した。蒙古勢は太鼓の響きに合わせて集団で動いたので、少なくとも初めは日本勢の手に負えなかった。しかし、蒙古勢は日本勢による夜襲を恐れて、夜になる前に船に引き上げたので、内陸まで占領されることはなかった。

話がそれてしまったが、要するに、日本人には組織的に動くという伝統がなく、それが明治以後の日本のいろいろな面にも投影していると思う。第2次大戦後、日本の企業は組織で動くので強いのだということがしばしば言われたが、私は実はそうではなかったと思っている。日本企業は社員一人ひとりの力をうまく集積することで成功したのであって、初めから組織的に社員を動かすタクティクスを持っていたわけではなかったのだ。しかし、そのような事情は明確に意識されることがなく、企業は組織で動くという「神話」ができあがってしまったのだと私は思っている。

そこで、今後の日本はどうすれば良いのだろうか。個人技の積み上げという伝統的な手法の長所を積極的に伸ばすのか、そうではなく、アメリカが得意とする組織的な動きを重視する方向に思いきって舵を切るのか、どちらにするのかということだ。イチローの大活躍を見ていると、前者の方が良いのかなという気がするのだが、現在の日本の社会や企業に、個人技をじっくりと磨かせるだけの余裕が残されているのかという問題がある。この点については、残念ながら、私は答えを出すことができない。  
(おわり)